

令和元年11月12日
(2019年)

保護者のみなさまへ

吹田市立東佐井寺学校
校長 内田 祐子

平成31年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成31年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

全国値を下回る

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと

- ・「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問」をしたり、「目的に応じて質問を工夫」したりすることは概ねできていますが、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」ことに課題があります。

書くこと

- ・「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと」や、「図表やグラフなどを用いた目的を捉える」ことは概ねできていますが、「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の工夫を捉える」ことに課題があります。

読むこと

- ・「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」ことについては、答えを選択する形式の問題では概ねできていますが、自分で考えて書く形式の問題に対して課題があります。また、目的に応じて本や文章全体を概観して効果的に読む」ことにも課題があります。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・「漢字を文の中で正しく使う」ことは、送り仮名のある漢字では概ねできていますが、同音異義語のある漢字に課題があります。また、「接続語を使って、文と文との意味のつながりを考えながら内容を分けて書く」ことに課題があります。

●国語科における成果と今後の改善点について

相手意識や目的意識をもって自分の考えを理由とともにまとめて書いたり、質問をしたりする力など、コミュニケーションの中で自身の考えを表現する力は育ってきています。漢字については、学習したことのある読み方では書けても、同音異義語のように選択肢が複数ある漢字の中から適切な漢字を選んで書くことや、熟語として漢字を的確に使用することに課題が見られます。漢字を機械的に覚えるだけでなく、成り立ちや意味、場面による使い分けなど、漢字本来の持つ特性とともに学習していけるよう取り組んでいきます。また、初見の長文を自分の力で読み解く経験も不足していることが見受けられます。今後は児童が主体的に漢字の学習に取り組めるよう、授業の中で漢字への興味関心を引き出す工夫をしていくとともに、教科書以外の長文にも触れる機会を増やしていきます。

●算数《概要》

全国値をやや上回る

数と計算

- ・概ねできていますが、「示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい指揮にして計算する」ことにやや課題が見られます。

量と測定

- ・概ねできていますが、「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述すること」にやや課題が見られます。

図形

- ・概ねできていますが、「図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成すること」に課題が見られます。

数量関係

- ・概ねできていますが、「目的に適した、『伴って変わる二つの数量』を見いだすこと」にやや課題が見られます。

●算数科における成果と今後の改善点について

本校では、昨年度の「みんなで考え、みんなでわかる授業」との研究テーマから、特に「全員が主体的に授業に参加するための動機づけ」と「子どもの主体的な学びを引き出す」という点に焦点化し、今年度のテーマを「子どもの主体的な学びを引き出す発問の研究～ズレから問いを生む授業～」と掲げ、教材研究会や研究授業等の研修を重ねております。また、少人数指導担当者を中心として3年生・6年生において、計算の正答率向上および算数テストにおける無回答を減少させることにも取り組んでいます。無回答率については、後半の問題になると無回答率が高くなるという傾向が今年度も見られました。時間配分を行って計画的に問題に取り組めるよう引き続き指導していきます。「なぜ、こうなるのか」を算数用語を使って説明をする経験が不足していることも見受けられます。授業の中で、自分の考えを書く機会を日常的に取り入れ、自分の言葉で説明できるよう指導していきます。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・「自分には良いところがあると思いますか」「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがありますか」ともに全国値を上回っており、学校内外で様々なことに挑戦し、やり遂げていく経験の中で、自身の良いところを感じていることが見受けられます。
- ・「学校の授業時間以外に普段1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか」は全国値を上回っていますが、「学校の授業時間以外に普段1日当たりどのくらいの時間、読書をしますか」は下回っており、家庭で学習習慣は身につけていますが、読書をする機会は少ないことが分かります。
- ・「家で自分で計画を立てて勉強していますか」は全国値を下回っており、学校の授業以外での学習は、学校の宿題や塾の課題など、あらかじめ設定された勉強が多いことが予想されます。
- ・「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」は全国値を下回っており、未知のことや高い目標に対して不安を感じていることが見受けられます。

【教科・学習について】

- ・「国語の勉強は好きですか」「算数の勉強は好きですか」は全国値を下回っています。また、「国語の勉強は大切だと思いますか」「算数の勉強は大切だと思いますか」ともに全国値を下回っていることから、その学習が持つ魅力や意義が十分に伝わり切っていないことが見受けられます。
- ・「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」は全国値を上回っており、少し難しそうなお題でもこれまでの学びと関連付けて解決していくという授業での取り組みが成果として現れていると考えられます。
- ・「算数の解答時間は十分でしたか」は全国値を上回ったのに対し、「国語の解答時間は十分でしたか」は全国値を下回っています。国語の問題を解く際の時間配分に特に課題があることが見受けられます。

3 今後の取り組み

教科に関する結果を踏まえ、本校では学習内容と日常生活との関連をより身近に感じられるよう授業の工夫を行っていくとともに、国語や算数など各教科の持つ有用性を実感し、意欲をもって学習に取り組めるような授業づくりをさらに進めてまいります。

また、自分の考えを話す(書く)機会を大切にし、発問に対して全員が自分なりの考えを持ち、自分の言葉で話せる(書くことができる)ような場面を積極的につくっていきます。

生活環境や学習習慣等の結果を踏まえ、児童が主体的に取り組める「自主学習」の機会を幅広く取り入れ、児童が自分で決めた目標に向かって自ら探求していく姿勢を育成していきます。

子どもたちの成長は、教科学習における知識の獲得だけではなく、学習に向かう意欲や姿勢、読書を通して新たな知識に触れ、興味・関心を広げていくことも大切です。ご家庭におきましても、お子さんが良書と出会える機会を増やしていただければと思います。また、テレビやゲーム、スマートフォンの使い方や使用時間についても、今一度ご家庭でも一緒に考えてみてください。